



東京会工会だより No.3

平成11年4月20日発行 東京会工会事務局 川崎市中原区上平間2079-1(ニッポ産業(株)内) TEL 044-544-0811

マンネリ化への警鐘



東京会工会会長

赤 津 仲 雄

(25年C卒)

新しい春を迎えて、会員の皆様にはますますご健勝にお過ごしのこととお喜び申し上げます。

今年も未曾有の社会混乱の中にあつて、会運営にも多くの困難が生じて来ておりますが、最近の東京会工会活動のマンネリ化にも不安を感じるようになってきました。

ご存じの通り年間を通じての各種行事はほぼ決まつており、これを前例と惰性でこれからも進めて行くとするれば、会の発展に大きな支障要因となつて行くのではないかと……。最近の執行部会議において問題提起の場面も白熱する議論も少なくなり、シャンシャン会議が多く成りつつあるのではないかと懸念すら感じざるを得ません。

マンネリ化要因による衰微兆候は、知らない中に内部潜行するものであり、気づいたときはすでに遅く、恐ろしい結果となつていくことであります。

このように考えを進めますと、会の最終責任者であるべき私自身を域外においた無責任極まる話となつてしまいますが、しかし全員が呉越同船の中にあつたとしたら、それこそマンネリの潜行現象に気づく筈ありません。

永続を運命づけられている会運営の基本とは、夢を前におき、常にみずみずしいエネルギーを保持してこそ達成出来る。

しかし、このことが難事であることは言うまでもありません。したがつて年間イベント自体に問題があり、これを変更して……とまで言及するものではありません。現在実施されている物は長い伝統と内容の充実があり、これからは最優先されるべき事柄であります。

私がここで強調したいことは、少なくとも私達執行部はマンネリ化抑制に常に留意し、観念にとらわれることなく、惰性に流されることなく、広い視野の中で多くの問題をさぐり、熱意と信念の議論をもたなくてはならないと云うことであります。

ここで誤解を恐れず、大胆な一つの提案をしたい。

執行部会議においては、「先輩、後輩の垣根を取り払え！」と。

会の運営基本方針「若いエネルギー」こそ活性化に不可欠なものであり、マンネリ阻止に最も有効な形であることを自覚すべきであると信じます。

今年も合同役員会議において執行部役員の新任案が諸先輩から承認され、総会において決定されると思いますが、このように新鮮な血の導入も有効な手段となりましょう。

ただ若さを強調するあまり、誤解してならない大事なことがあります。これまで長い伝統の中で、先輩の方々によって培われて来た東京会工会の重厚な姿は、最も尊厳なものであることを失念してはならない。

このことから、諸先輩より念頭の活動方針の承認を受ける新年役員合同会議は、私がつとも緊張する場となつております。

しかし、その案件を生み出すための執行部にあつては、シャンシャン会議であつてはならないのです。

議論は易く、実行は難しいと云う会運営の手法に多年苦勞を重ねておりますだけに、あらゆる可能性に夢をかけ、無駄と思つていても、それに挑戦し、そのエネルギーを常に掘り出し起こし、保持する姿勢こそ、私達執行部に課せられた最も重要な責務でありましょう。

以上マンネリ化への恐れを述べてしまいましたが、これこそ歴代の先人達が幾度となく繰り返し議論しながらもどうしても解決し得なかつた案件なのであります。巻頭の言とは思えない話となりましたが、自己批判をして新たな気持ちで会の運営に取り組む為、敢えて問題提起をしてみました。

会員の皆様にも、忌憚のないお叱り等を含めた多くのご意見をお寄せくださいますよう、心よりお願い申し上げます。

会報発刊に思う



金子昌輝

(32年A卒)

東京会工会幹事長

昭和天皇が崩御されたとき、真に激動の時代は終わった。年号も平成と改められた。

『外平にして内成る、内平にして外成る』と神妙にコメントを発表する、時の小淵官房長官の顔を思い出される人も居るであろう。中国の故事からとったものという。新しい年号に、さらなる発展をみんな期待した。まして平成元年といえは、バブルの頂点である、そのような時、誰が今日の、この景気割れを予想し得たであろうか。

あれから十年世は反転した。今や連日、国会内は勿論、マスコミにあっても経済の低迷に対する批判は激しく、責任の矢面に立たされ答弁を繰り返している、時の首相が小淵氏本人という事は、まことに不思議な縁とさえ思っている。

今バブルは完全に弾けてしまった。バブルという言葉も過去のものになってしまった如くである。会社法人や家庭個人にあつてもリストラや経費の節減が行われ、あらゆる贅肉は落とされた、もはや涙も出ないギリギリの所迄きていると思われる。

そんな中、経企庁やマスコミに於いても、ほんの少しではあるが、景気指標の同行を示す灯りが見え始めていると囁かれる様になった、期待感の表れといえども、そう願ひ度いものである。

現代社会に於ける、いろいろな会合はど

うであろうか。先輩や友人に囲まれ雪雪の学舎で青春時代を過ごした、それぞれが、故郷を後にして上京する。一人暮らしの寂しさ恋しさのあつた時代。懐かしい友に会い、酒食を得て、何かと語りたいと集まりだした同窓会は古き心の寄り所であった筈だ。それも今ではすっかり状況を変えた。

科学文明の発展は益々故郷との距離をなくし便利にはなつたが、それが又ふるさと意識を、低下させる事にもなつた。更には現状生活基盤の環境の変化も見逃せない。今や全国的に地域の活性化が進んでいる。生活地に立脚した集まりが奨励されると、町内会、スポーツ文化や祭り等、様々なイベントが計画される。それらに参加する事は勿論、役員を任せられ忙しくされている会工会の方々も大勢居られる、という事で会工会の出席は御勘弁の程をと言つてこられる方々も多い、やむなしと思つている。

しかし、長い歴史を持つ東京会工会も先人達のお陰でまだまだ続いているのである。現代の進化に翻弄されながら、それでも細々と守り続けている人達も居る。

会の行事は定着した。総会では、賑やかに会津盆踊りで最後を飾っている。唯一ふるさとを偲ぶ一瞬である。ゴルフ大会。特に秋の芋煮会は盛大である。奥様族の参加が増えている。これからの様にすれば良いのか、常にマンネリ化と戦いながら、それでも何とか頑張っている。会報は久しぶりにヒット商品となつた。会員の消息を知る上で役に立った。今、千五百名位には常に案内状を出しているし、半分以上が何らかの連絡が取れている。特に会費の納入に至つては、三百名程の方々の賛同を得ていて心強い。今後は会報内容を更に充実させるために会員の方々にも名案を求めたいと

思つている。環境条件の変わった現代社会の同窓会をどうすれば良いのか皆様方の御指導と御支援を頂き度いものと心より願ひものであります。

会津のよさ

副会長

板橋 桂

(25年丁卒)

会津のよさは何だろうと、同郷の人々と話題に興ずると、たいていは、会津の「愚直」や「盆地」を愚痴つたり、くさらしていく方向が多い。

ところが、他郷の人が交わると、途端にいっきと胸を張り、山紫水明から歴史的な物語や、多くの文化遺産に及んで、「愚直・盆地」といったものが、朗々として会津のよさに展開される。

これと似たようなものに、私だけの傾向かと思つていたもので、「出身地は」と聞かれると、「会津」と答える。先ず「福島」と答える人は少ないようである。

一般的には、県名、地名の順に出てくるのが普通であるから、常識的には少し異なる答え方である。ところが、これが結構相手の興味を呼ぶようで、話の接ぎ穂の役目をしてくれて、初対面の人との接触維持に役立ったことが何度かある。

会津を多少でも知つている人であれば、会津のイメージから、ノスタルジアを呼び起こすようなものがあるのかなと思つたことがある。「会津の三泣き」ということが

あるそうで、一泣きは、遠く寒い頑迷な田舎に来て、望郷になく。二泣きは、なかなか心許した仲間に入れてもらえずに、悩みに泣く。そのうちに、土地柄にも慣れて仲間に入れてもらえるようになり、人情の機微にふれて、「会津のよさ」の三泣きに至るといふ三段論法である。

会津のよさは、熟成された有形無形の文化的遺産が沢山伝承され、然も土地柄の独自性を保ってきたことである。

文化の背景には、安定した政治と産業の振興による経済的な繁栄にささえられる豊かな民生社会がある。

米が経済の基本である日本の歴史は、良田がどの位あるのかによって左右されている。

良田は、政治の基本的は施策である治水による灌漑（かんがい）効果がどうであるかが全てである。いたる処に、ゆるやかで広い傾斜地と、豊富な水源のある会津盆地は、江戸時代頃迄の土木技術では、最も開発しやすい地理条件であつたと思つた。

あちこち旅をして、テーマを灌漑（かんがい）、田地で観ると、現代に隠されて見にくいものが多いが、会津の右に出る処はない。

開発要件の政治力は、会津藩祖保科正之公が封じられたことよつて生じる。歴史の評価は現代性があるだろうが、正之公が徳川幕府に安定した管理法を導入したことについて、歴史の語りは少なすぎると思つた。

また、正之公が封じられずに、会津の中に猪苗代藩とか喜多方藩、坂下藩なんてあちこちにあつたら、先ず駄目である。

会津のよさを一言で云うと、酒のコマースャルにある「会津のよさは、酒のよさ」かもしれない。

会津工業高校の近況

福島県立会津工業高等学校

小林 憲 一

陽春の候 東京会工会の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

会員の皆様には、日頃より本校に寄せられる熱い想いと期待に対して物心両面にわたり多大のご支援とご協力を賜り感謝申し上げますとともに、衷心より敬意を表する次第であります。

さて、平成十年度における本校の近況について、簡単に報告申し上げます。

(1) 創立百周年記念事業関係
『福島県立会津工業高等学校創立百周年記念事業実行委員会』が発足されました。標語は教師と生徒から募り、応募総数六十一の中から次のようになりました。
「二十二年創立百周年記念事業を成功させよう！」

また、実行委員会役員については次のような組織であつたことが確認されました。

- 一(委員長) 会工同窓会会長
- 二(副委員長) 会工同窓会副会長・各地区会工学生会長・職域会工学生会長・PTA会長・建友会会長・電友会会長・本郷分校同窓会会長
- 三(事務局長) 教頭
- 四(事務局員) 教職員・各地区会工学生会幹事長
- 五(会計) 事務長
- 六(監事) 会工同窓会監事・PTA監事・学校教職員団体会計監査(各一名)
- 七(参与) 各地区会工学生会顧問・歴代PTA会長・各地区会工学生会役員・職域会工学生会

表・歴代校長・旧教職員・その他委員長が委嘱した者
八(専門部) 各部の部長・次長

(2) 進路指導関係

就職関係は平成十一年二月十二日現在の求人全業数は県内百十社(地元は七十三社)県外四百三社で合計五百十三社である。昨年の求人全業数は合計で七百十六社であつたので、昨年に比べてさらに就職状況は厳しくなつています。就職希望者は百八十三名あり、百六十一名(公務員9名含む)が決定しています。二十二名(縁故、その他十一名含む)が未定になっています。

進学関係は希望者は百六十三名あり、決定したのは四年制大学合格者が三十九名、短期大学合格者が七名、専修学校合格者が八十三名、高等技術訓練校合格者が十五名、進学

未定者十九名となっています。特に、少子化に伴い地元企業への就職希望が多い中で、自分に合った就職先がなく、されとて大学に入る学力もないことから、安易に専修学校に流れている。今後さらにこのような傾向が続けば専門高校としての役目を問われ大きな問題になつてくる。これからは生徒に対して物づくりを通して額に汗して働くことの尊さを学ばせ、勤労意欲をもつた生徒の育成に努めなければならない。そのためには、若い労働力に夢を持たせるような企業を受け皿の発掘にも奔走しなければならぬと痛切に感じている。

(3) 校舎の大規模改造工事関係

平成八年度より大規模改造工事が始まり、平成十年度は管理棟の外壁工事が終り、外観の上ではすばらしい校舎群が整備され

ました。平成十一年度と十二年度にわたり管理棟の内装工事が着工されれば、平成十四年度に創立一〇〇周年記念式典が新しい校舎で迎えられる運びとなります。しかし、不景気による福島県の財政難から一部には改造工事が延期になる予想もされています。



会工同窓会入会式に臨む

管 家 忠 平
(26年E卒)

平成十一年三月二十六日に福島県立会津工業高等学校を訪問し、学舎は近代的建築物であつても『星霜ここに幾かへり』と質実剛健の校風は何等変わった様子もなく、現在も継承されていることを実感いたしました。式典の開始時刻、午前十一時二十分五分前に南体育館へ入場、すでに卒業生、

三百六十人余名は着席しており、定刻と同時に式場のざわめきが、一瞬のうちに厳肅なる雰囲気包まれ、『同窓会入会式』が開会されました。

ご挨拶の内容

《郡司学校長》

一、福島県内は唯一の電力生産県で猪苗代を中心に水力発電が優勢な時代に本校の卒業生が活躍中に、技術革新により、現在は、浜通りに原子力発電があり、電力を関東圏へ供給する時代になりました。同窓会(先輩諸氏)は各地区にあり、東京会工会に招待されて諸先輩の方々とお会いする機会が多々あります。みなさん(卒業生)とお会いできる日を楽しみに……。みなさんのご健勝と、ご多幸を祈念いたします。

《吉田会長》

卒業生へ、お祝いのお言葉と、会工同窓会に入会された主旨等、全国的に会工同窓会が各地にあること、又各同窓会運営等、特に東京会工会の総会、懇親会の内容(料理の豪華、会津盆踊り等、詳細に力説)秋には芋煮会があり、会津から材料を取り寄せ、特に強清水のニシンの天ぷら、イカの花がら、饅頭の天ぷらを食べ、会津の銘酒、を交わしながら、故郷の若き日の思いで話で、会が盛り上がり、先輩、後輩との和が一つの輪になつて、益々、会工会の発展につながります。みなさんも、是非各地の同窓会に参加されることを願います。会津工業高等学校の益々の御発展をお祈り申し上げ、卒業生全員のご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。



▶赤津会長挨拶
「東京会工会の更なる発展を！」



総会に出席しての回想

市 東 良 一
(30年E卒)

平成十年度東京会工会総会が、恒例により六月二十七日上野精養軒にて開催されました。緑の杜を、会場に向かつてぶらぶら歩いていると、都会の喧騒を忘れ、故郷や卒業時の事等が思い出されます。

「昭和三十年春、不景気で就職難の当時、電気科長 故菊地 巖先生の紹介で就職してきました……」

三月三日卒業式、翌日一番列車に乗り、担任 故増井 次郎先生と母親に見送られて上京した事……

当時東京は、食堂での食事は外食券を持参しないと、食べられない所もあった事……

……
もりそば二十五円、ラーメン四十円、コッペパン十円でジャムかバターピーナッツを付けると五円追加、日給二百十円の日給月給の時代で、半分以上が食費であった事など……

総会に引き続き懇親会に入り、学校長から母校の近状報告を伺い、変わり行く様子を感じながらも懐かしく聞かせてもらいました。

明治三十七春なかば……と校歌にあり四年後には、創立百周年を迎える母校の伝統に誇りを感じながら、昭和二十九年、高三の時、五十周年の行事に生徒会としてたずさわった事など、大変意義深く思い出されます。

さて年一回の総会は、ご存じのとおり、上野で会津のたよりを聞き、旨い酒と料理、そして校歌を声高らかに歌う会工卒業生の集いです。
他には、毎年多摩川での秋の芋煮会、ゴルフコンペ等の行事も計画されていますので、一人でも多くの方が参加して下さいれば幸いです。いつもながら、会長初め役員皆様方のご苦勞には、心から感謝申し上げます。



▶声高らかに。頑張れ！頑張れ！
健男児！
▼昔懐かし、ビールも旨し……



芋煮会



田巻 忠雄 (29年C卒)

会津の芋煮会について美味しさと楽しさを日頃から妻に自慢していたので、今回の東京会工会の芋煮会に夫婦同伴で初めて参加することになった。白状すると私が町内会の芋煮会に参加したのは、多分五・六歳の頃で、したがって、その記憶は非常に曖昧で、ただ美味しかったのと楽しかった印象が残っているだけである。それ以後の学生時代は戦中戦後の飢餓の時代であり、芋煮会をやる機会は全く無かった。そのため私にとって芋煮会は、子供の頃からの一種の憧れとなっていました。

芋煮会の前日は、台風十号が接近していたので心配されたが、幸い日本海沿岸をスピードで通り抜けたため、当日、風は強かったが、晴天に恵まれ絶好の芋煮会となった。

大黒屋は多摩川と鉄橋を見渡せる位置に建っていた。その正面入口には、東京会工会旗が掲示されていて、中には既に五十人程度の参加者がテーブルに着いていた。見渡すと知っている顔はなかったが、夫婦や子供連れが多かったのでホッとしました。テーブルの上にはニシン、イカ、まんじゅう等の天ぷらや焼き鳥、枝豆等の御馳走とビールやジュースが所狭しと並べられていた。

間もなく開会となり、和気あいあいなか会長の挨拶、乾杯、簡単な自己紹介があり、それと同時進行の形で付近の人と談笑

しながら酒をくみかわした。私達二人は下戸のため、目的である芋煮が早く出てくるのを期待を込めて待った。宴会がたけなわになったとき、遂に芋煮が登場した。私達二人は料理を運ぶ出入り口に近かったため、芋煮が入ったドンブリを最初に受け取った。そこで一瞬我が目を疑った。二人共ドンブリの中には少量しか入っていない具の中に入れて、里芋が一個しか入っていない混じったのである。こんな筈ではない。私の記憶では会津の芋煮はもつと具沢山だった筈だ。



▲青空の下、出席者全員の記念写真。はい、ポーズ！

そう思いながら周囲を見渡すと、皆のドンブリには里芋が結構ゴロゴロしているようなので、私達のドンブリは最初に盛られたため、具が大鍋の底の方に沈んでいて、具をすくいきれなかったものと推察した。お代わりをしたら里芋が沢山入っていたのでこれで納得し、お腹が一杯になるまで食べたが、子供のとき食べたあの美味しかった味とは程遠いように思えた。今の時代の飽食の時代に馴れてしまったせいであろうか。

宴会も終盤となり、熱気にあふれたビンゴゲームが開始された。妻は全然駄目であったが、私は思いもかけず三人目にビンゴとなり電気アンカを入手した。

最後は多摩川を目の前にして全員で校歌や応援歌を合唱した。日頃は歌ったこともなく、卒業してから四十四年も経つので歌詞には自信がなかったが、皆と合唱すると忘れていた歌詞がスラスラ出てきたのに驚くと同時に、胸が熱くなるのを感じた。そして、なんとなく去りがたい余韻を残しながら解散となった。



▲先輩！会津の酒、一杯飲んでくらんじょ！

ゴルフ会に参加して

角田 新作 (31年A卒)

第九回東京会工会ゴルフコンペが初秋の九月九日、栃木ヶ丘カントリークラブにて開催されました。

当日は三十度以上の残暑きびしい日でしたが、実行幹事五十嵐さんのユーモアある挨拶、写真撮影後、夫々にスタートしました。プレー中は、その猛暑も忘れ、暗い世相も忘れ、そして普段のいかつい父親としての自覚も忘れ、本当に楽しい一日でした。

小生、二度目の参加になりますが、ゴルフを始めて約三十年、距離もスコアも下降線、それが還暦を迎えた年の本大会で、ハンディキャップとパートナーに恵まれ、図らずも優勝の栄誉に与りました。朝五時に自宅を出発、高速道路を乗り継ぎ二時間半の道のりも何のその、これを機会に益々の意欲をもって、楽しいゴルフを続けたいと思います。

世話人の皆様方のご努力に対しましては、心からお礼申し上げます。会員の皆さん、いつまでもお元気で！



▲優勝カップ授与

平成10年東京会工会総会出席者

日時：平成10年6月27日(土) 場所：上野精養軒

(敬称略)

〔御来賓〕

会工同窓会会長 吉田 一栄(20 K)
 会津工業高校長 郡司 正孝
 東海会工会会長 佐瀬 一信(26 E)
 同窓会事務局 鈴木長九郎工業化学科課長(35 C)
 " 梨本 傑セラミック科(41 K)

〔会 員〕

T 9 佐々木忠平	K 33 玉川 進	M 19 稲村 和夫	E 32 岡村 進
16 押山登喜男	33 五十嵐清夫	20 穴沢 弘好	42 田中 健一
25 板橋 桂	34 田中 幸吉	23 諸橋 栄輔	42 風間 洋治
27 村岡 司国	34 桜井 靖久	24 慶徳 一郎	42 佐瀬 彰
34 石綿 弘	34 荒井 士郎	27 田場川善雄	
34 大島 諒三	34 堀田 耕	27 池田 節雄	D 40 芳賀 博
34 小池 清	36 加藤 邦男	27 吉田 初彦	
34 佐々木条昭	43 武井 博史	27 川島 保	A 25 石原 貞光
34 五十嵐 勲	43 山田 利廣 同伴1名	29 鈴木 六郎	28 渡部 保男
34 小林 忠男	47 武藤 政明	29 武藤 正義	31 角田 新作
		38 伊藤 孝行	31 大矢 隆
L 20 大川原 薫	C 9 安達 公彦	39 古見 四友	31 中丸 正弘
20 山田 登	13 小松 倉蔵	40 江川 竹夫	32 宮森 健介
21 鵜川平四郎	20 安部 高明	40 杉原 努	32 金子 昌輝
35 芳賀 勝義	23 秋山 勇	40 鈴木 邦夫	35 五十嵐昭夫
	24 佐藤 和夫	40 戸野部武彦	39 浅井 国明
K 20 万澤 和禮	24 蓬田 光雄		40 稲垣 力
20 赤羽 恒夫	25 石見 勝雄	E 26 管家 忠平	
20 田場川興咲	25 赤津 仲雄	27 田村 万司	
21 小野 昭	25 大腰 久善	28 鎌田 甲七	
23 田村 良次	27 秋山 利喜	30 市東 良一	
26 関本耀三郎	29 岡島 文弘	31 金作 等	
27 斉藤 敏雄	31 秋山 利光	31 鈴木 忠恵	

会 員 80名

平成10年度芋煮会出席者

日時 平成10年10月18日(日) 場所：多摩川大黒屋

(敬称略)

T 27 村岡 司國	K 47 武藤 政明	M 27 池田 節雄	E 40 星 陽一
35 福田 弘司 同伴1名	57 長谷川好孝	27 江花 源吉	42 田中 健一
	H7 秋山 高弘	27 川島 保	H10 長田 耕治
L 20 大川原 薫		27 田場川善雄	
27 星野 健	C 6 山浦 徳春	27 橋本 修 同伴1名	A 26 石原 貞夫 同伴1名
35 芳賀 勝義 同伴1名	23 秋山 勇	27 船田 昭夫	31 大矢 隆
	25 赤津 仲雄	28 飯塚 等	32 金子 昌輝 同伴1名
K 21 樽川 善夫	29 田卷 忠雄 同伴1名	28 高梨 高	35 五十嵐昭夫 同伴2名
33 加藤 修治	30 安部 昭吉 同伴3名	38 伊藤 孝行	
33 玉川 進 同伴1名	30 伊藤 善夫 同伴1名		
34 荒井 士郎 同伴2名		E 26 管家 忠平	
34 田中 幸吉	M 16 山田 定江	27 田村 万司	(出席者62名)
34 堀田 耕	19 稲村 和夫	32 岡村 進	
34 山田 伸作	20 穴沢 好弘	32 金子 進	
34 横澤 修	24 慶徳 一郎	33 飯塚 栄策	

平成10年度年会費納入者一覧

No.	卒年	科	氏名	No.	卒年	科	氏名	No.	卒年	科	氏名	No.	卒年	科	氏名
			(総会当日納入)												
1	S09	T	佐々木 忠平	5	S24	T	室井 忠六	74	S21	C	郡司 亮	143	S31	M	坂内 豊明
2	S16	T	押山 登喜男	6	S25	T	板橋 桂	75	S22	C	小林 博	144	S32	M	石山 義益
3	S27	T	村岡 司國	7	S26	T	本間 至	76	S22	C	真鍋 常夫	145	S33	M	大澤 賢二
4	S34	T	石綿 弘	8	S27	T	相田 武士	77	S23	C	常木 浩二	146	S34	M	江川 誠二
5	S34	T	小池 清	9	S29	T	荒木 靖夫	78	S24	C	萩原 進	147	S34	M	大森 秀一
6	S34	T	大島 諒三	10	S29	T	相田 一夫	79	S25	C	安井 弘道	148	S40	M	杉原 努
7	S34	T	佐々木 象昭	11	S33	T	樋口 傳	80	S25	C	歌川 晴雄	149	S43	M	大竹 信
8	S34	T	小林 忠夫	12	S35	T	福田 弘司	81	S25	C	笠間 龍郎	150	S26	E	遠藤 文夫
9	S34	T	五十嵐 勲	13	S16	L	古川 保	82	S25	C	甘利 忠雄	151	S26	E	吉田 忠
10	S20	L	大河原 薫	14	S21	L	鶴川 平四郎	83	S25	C	原田 四郎	152	S26	E	菅家 忠平
11	S20	L	山田 登	15	S25	L	穴沢 三郎	84	S25	C	古市 義男	153	S27	E	五十嵐 亨
12	S20	K	万澤 和礼	16	S27	L	星野 健	85	S25	C	大腰 久善	154	S27	E	小林 一夫
13	S20	K	赤羽 恒夫	17	S35	L	芳賀 勝義	86	S26	C	吉田 実	155	S27	E	清野 吉男
14	S20	K	田場川 與咲	18	S38	L	斎藤 芳秋	87	S27	C	白幡 健	156	S27	E	長谷川 優
15	S21	K	小野 昭	19	S39	L	佐藤 功	88	S28	C	野原 勝	157	S27	E	田村 格司
16	S23	K	田村 良次	20	S40	L	伊藤 森雄	89	S29	C	佐藤 尚	158	S28	E	加藤 国男
17	S26	K	関本 耀三郎	21	S42	L	大竹 治郎	90	S29	C	星 光	159	S28	E	山浦 美夫
18	S27	K	斎藤 敏雄	22	S45	L	五十嵐 儀策	91	S29	C	田卷 忠雄	160	S28	E	大江 昭三郎
19	S33	K	玉川 進	23	S54	L	久保倉 尚子	92	S30	C	伊藤 嘉夫	161	S28	E	大友 亨
20	S33	K	五十嵐 清夫	24	S13	K	鈴木 網雄	93	S30	C	国井 茂夫	162	S28	E	武藤 健司
21	S34	K	桜井 靖久	25	S15	K	山崎 信一	94	S30	C	鈴木 勲	163	S28	E	平宮 繁
22	S34	K	堀田 耕	26	S17	K	遠藤 忠康	95	S31	C	鈴木 利和	164	S29	E	永瀬 繁
23	S43	K	武井 博史	27	S17	K	林 貞吉	96	S32	C	国分 賢一	165	S29	E	坂内 不二男
24	S09	C	安達 公彦	28	S20	K	岸 貞三	97	S32	C	石井 広道	166	S29	E	山口 公胤
25	S13	C	小松 倉蔵	29	S20	K	吉田 正	98	S32	C	大久保 貢一	167	S29	E	千葉 正二
26	S20	C	阿部 高明	30	S20	K	高橋 民雄	99	S32	C	鈴木 八郎	168	S29	E	谷津 弘
27	S23	C	秋山 和男	31	S20	K	佐藤 璋三	100	S33	C	金川 和也	169	S29	E	渡部 良一
28	S24	C	佐藤 和勇	32	S20	K	柴山 景介	101	S33	C	桑原 優	170	S30	E	市東 良夫
29	S24	C	蓬田 光雄	33	S21	K	大竹 武	102	S34	C	遠藤 信孝	171	S30	E	川島 一雄
30	S25	C	石見 勝雄	34	S21	K	樽川 義夫	103	S34	C	木陰山 国雄	172	S30	E	渡部 一敏
31	S25	C	赤津 仲雄	35	S25	K	麻生 登	104	S39	C	加藤 正夫	173	S31	E	古川 健
32	S27	C	秋山 利喜	36	S26	K	高木 俊雄	105	S41	C	小澤 正春	174	S31	E	高橋 光一
33	S29	C	岡島 文弘	37	S27	K	室井 正男	106	S49	C	小林 栄	175	S31	E	佐藤 光衛
34	S31	C	秋山 利光	38	S28	K	板橋 勉	107	S52	C	川島 静雄	176	S31	E	佐藤 滋
35	S23	M	諸橋 栄輔	39	S30	K	高橋 千恵子	108	S44	G	川副 満	177	S31	E	樋山 忠佐
36	S24	M	慶徳 一郎	40	S30	K	佐藤 芳之	109	S16	M	山田 定江	178	S32	E	菅家 俊二
37	S27	M	田場川 善雄	41	S30	K	松本 展	110	S17	M	須山 安	179	S32	E	大堀 孝雄
38	S27	M	池田 節雄	42	S30	K	村上 謙	111	S17	M	大和田 寅夫	180	S32	E	岩澤 毅
39	S27	M	吉田 初彦	43	S32	K	清水 悦美	112	S17	M	渡部 一恒	181	S33	E	宮城 久雄
40	S27	M	川島 保	44	S33	K	加藤 修次	113	S17	M	二瓶 文吉	182	S34	E	柏木 宏
41	S29	M	鈴木 六郎	45	S33	K	渡部 貞衛	114	S17	M	中田 宏司	183	S34	E	神 誠喜
42	S29	M	武藤 正義	46	S34	K	荒井 士郎	115	S19	M	稲村 和夫	184	S35	E	馬場 誠吉
43	S38	M	伊藤 孝行	47	S34	K	田中 幸吉	116	S20	M	穴沢 弘好	185	S36	E	堀 雅宏
44	S39	M	古見 四友	48	S34	K	鈴木 正秋	117	S20	M	鈴木 正則	186	S36	E	斎藤 善美
45	S40	M	鈴木 邦男	49	S35	K	神林 宏	118	S21	M	須磨 時夫	187	S39	E	長谷川 俊道
46	S40	M	戸野部 武彦	50	S35	K	棚木 紹夫	119	S24	M	児島 正俊	188	S40	E	星 陽一
47	S40	M	江川 竹夫	51	S36	K	加藤 邦男	120	S24	M	渡部 幸男	189	S40	D	大越 則道
48	S28	E	鎌田 甲七	52	S36	K	古川 誠	121	S25	M	古川 康夫	190	S42	D	高橋 登
49	S31	E	金作 等	53	S38	K	斎藤 博幸	122	S25	M	高橋 敏夫	191	S42	D	酒井 茂
50	S31	E	鈴木 忠恵	54	S38	K	芳賀 孝雄	123	S26	M	小柴 昌夫	192	S43	D	後田 敏
51	S32	E	岡村 進	55	S40	K	松本 凌	124	S26	M	太田 幸造	193	S60	D	五十嵐 信昭
52	S42	E	田中 健一	56	S43	K	山田 利廣	125	S26	M	秩父 清	194	S25	A	坂内 六郎
53	S42	E	風間 洋治	57	S47	K	武藤 政明	126	S26	M	中野 義正	195	S25	A	森山 国男
54	S42	E	佐瀬 彰	58	S47	K	北澤 重行	127	S26	M	田浦 寛一郎	196	S27	A	鈴木 茂
55	S40	D	芳賀 博	59	S49	K	平野 文一	128	S26	M	木村 孝	197	S28	A	渡部 喜博
56	S25	A	石原 貞夫	60	S06	C	山浦 徳春	129	S27	M	伊勢 亀 孝明	198	S28	A	林 昭雄
57	S28	A	渡部 保男	61	S07	C	二瓶 正	130	S27	M	橋本 修	199	S29	A	宇野澤 登喜男
58	S31	A	角田 新作	62	S08	C	塚原 迪郷	131	S27	M	江花 源吉	200	S30	A	角田 至啓
59	S32	A	宮森 健介	63	S12	C	児島 敬三	132	S27	M	佐藤 芳也	201	S30	A	鈴木 清
60	S32	A	金子 昌輝	64	S13	C	菊地 三郎	133	S27	M	坂内 哲雄	202	S31	A	酒井 兼三
61	S35	A	五十嵐 昭夫	65	S13	C	江川 義治	134	S27	M	舟田 昭夫	203	S31	A	大矢 隆
62	S39	A	浅井 国昭	66	S14	C	羽賀 末吉	135	S27	M	大竹 多喜雄	204	S31	A	中丸 正弘
63	S40	A	稲垣 力	67	S15	C	原 忠伍	136	S28	M	馬場 孝	205	S32	A	小椋 義昂
			(振込納入)	68	S16	C	小林 義隆	137	S28	M	梅宮 清志	206	S32	A	飯沢 建一
1	S16	T	五ノ井 清一	69	S16	C	長嶺 秋夫	138	S28	M	木村 豊彦	207	S35	A	須貝 三郎
2	S16	T	室井 要	70	S18	C	小林 春洋	139	S29	M	菊地 勲	208	S36	A	永井 克哉
3	S20	T	佐藤 慶之助	71	S20	C	笠間 主計	140	S29	M	田場川 進	209	S38	A	小林 義明
4	S23	T	折笠 昭	72	S20	C	郡司 輝良	141	S29	M	物江 弥	210	S43	A	高橋 寅男
				73	S20	C	木下 繁利	142	S30	M	山川 孝				

平成9年度 東京会工会収支決算報告書

(自平成9年4月1日 ~ 至平成10年3月31日) (単位:円)


科 目	予 算 案	決 算	備 考
前期繰越金	240,278	240,278	
収入の部			
総 会 費	1,000,000	910,000	90名×10,000・2名×5,000
年 会 費	610,000	545,000	272名× 2,000・1名×1,000
受け取り利息		552	
芋煮会会費	280,000	278,000	69名× 4,000・2名×1,000
役員会合同新年会	240,000	200,000	25名× 8,000
雑 収 入	300,000	391,000	総会、芋煮会、新年会、寄附等
収入合計	2,430,000	2,324,552	

支出の部			
総 会 費	900,000	902,943	上野精養軒 他
通信・印刷費	400,000	304,140	
事務用品費	10,000	0	
地方同窓会参加費	40,000	20,000	会津・郡山会工会
芋煮会費	280,000	256,849	茶屋『大黒屋』他
役員合同新年会費	200,000	212,460	上野『たいまる』
役員会会議室代	60,000	34,650	11,550×3回『福島会館』
事務局費	240,000	230,000	
『会工会』だより	150,000	0	H10.4 発行
予 備 費	150,000	10,000	井上元会長香典
基金へ繰入		228,863	
支出合計	2,430,000	2,199,905	
翌期へ繰越		364,925	

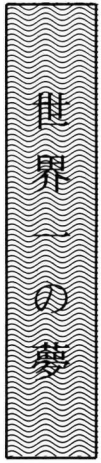
東京会工会基金	950,000
----------------	----------------

上記の通り報告致します。

平成10年3月31日

会計監事 関本耀三郎 

会計監事 大矢 隆 



平田ボン(昭吾)

(33年機械科卒)

私が機械化に入學したのは、世界一！になる為の 学問を学べると確信したからです。何故、その様に大それた確信を持つ

機械科では、溶鋼炉(キューポラ)で鉄を

学した。

たか？ それは、私が中学生の時、会工寮を見学して、カルチャー・ショックを受けたからです。日本で初めて完成したテレビジョンの実験公開。今でこそテレビは各家庭の家電としてあたり前ですが、当時は営業放送はしておりません。小さなブラウン管に映し出された白黒の映像、それだけで

溶かし、砂の型で様々な造形を造り上げる。「あの硬い鉄が！ 熔けてどんな形にでも出来る。」田舎者の中学生の脳裏には、手塚治虫の描くSF世界「鉄腕アトム」のロボット社会とオーバラップしました。「そうだ、この会津工業高校で勉強すれば、将来、僕が世界一になる夢を 必ず実現できる！」そして、昭和三十一年目出度く機械化に入

そして、憧れの設計製図を勉強、初めて手にする真新しい精密な(中学校迄は、文房具)製図器と定規、そして、私は何故か「戦艦大和」と「0式戦闘機」を思い浮かべた。「世界一の大和も0戦も、初めはこのコンパスの円と線の組み合わせによって設計され、そして、やがてこの世界に現実の勇姿を出現させたのか！ ようし俺も丸と線で『夢を』この世に産みだし世界一になってやる！」なんとその日から製図の時間に『漫画』を描き出し、一躍悪名を轟かすことになりました。「平田は入学の時は二番の成績で入り漫画ばかり描いて、卒業はラストから2番」というエピソードを残し昭和三十三年無事卒業そして、憧れの手塚治虫先生の弟子第一号となり、十年の修行後独立し『丸と線』を使って「名作アニメ絵本」全二百巻を完成、二億冊のベストセラーとなり全世界三十八カ国語で出版されて事実上ウォルトディズニーを抜き『世界一のアニメ絵本作家になりました。』会津、高バンザイ！ 機械科バンザイ！

